

# 安謝川水系河川整備計画

平成 22 年 4 月

沖 縄 県

# 目 次

第1章 河川整備の現状と課題 .....	1
第1節 流域及び河川の概要 .....	1
第2節 治水の現状と課題 .....	2
第3節 河川の利用及び河川環境の現状と課題 .....	2
第2章 河川整備計画の目標に関する事項 .....	4
第1節 河川整備計画の対象区間 .....	4
第2節 河川整備計画の対象期間 .....	5
第3節 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標 .....	5
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 河川環境の整備と保全に関する目標 .....	5
第3章 河川の整備の実施に関する事項 .....	6
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要 .....	6
1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所 .....	6
2. 河川管理施設の機能の概要 .....	7
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 .....	8
1. 河川管理施設の維持管理 .....	8
2. 水量・水質の監視等 .....	8
第3節 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項 .....	8
1. 地域ぐるみの河川管理 .....	8
2. 情報伝達体制の構築 .....	8

# 第1章 河川整備の現状と課題

## 第1節 流域及び河川の概要

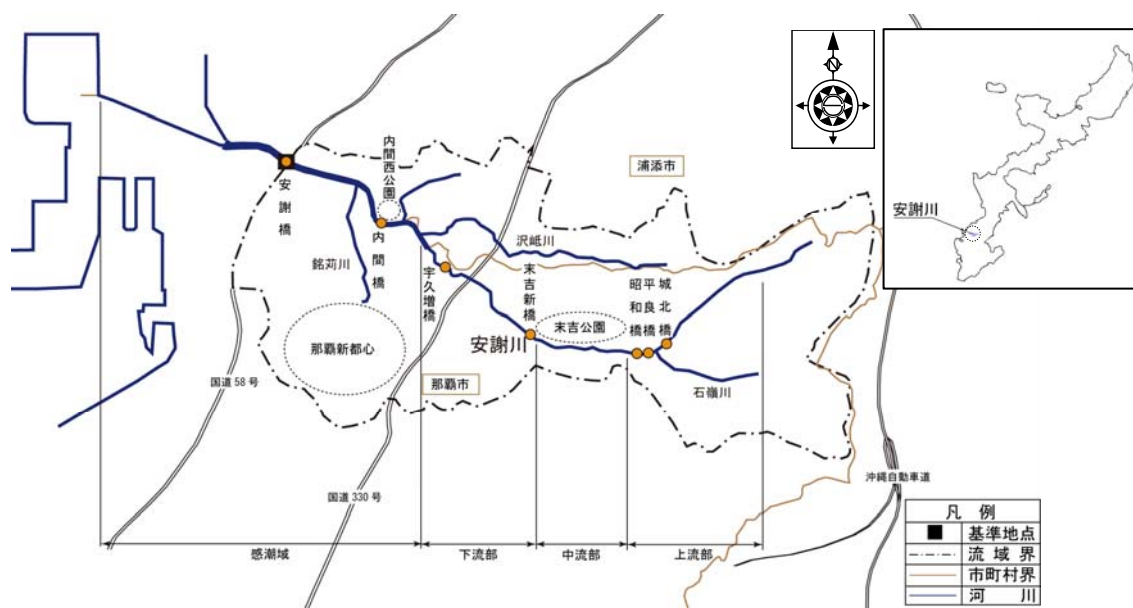
安謝川は、県都那覇市及び浦添市に位置し、その源を那覇市首里石嶺町の標高100～160mの丘陵地に発し、丘陵に広がる住宅地の中を南西に流下し支川石嶺川(普通河川)を合わせ、中流域の末吉公園の中を流下した後に、支川沢岷川(普通河川)、銘苅川(普通河川)を合わせ東シナ海に注ぐ、幹川流路延長5.7km、流域面積8.1km<sup>2</sup>の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨は梅雨期と台風期に集中しており、流域の年平均降水量は約2,100mm、年平均気温は約23℃と温暖な気候である。

安謝川流域は、宅地等の市街地が約86%、山地等が約12%、畑地等の農地が約2%となっており、約9割が市街化されている。中流域に鳥獣保護区に指定されている末吉公園と下流域に工業地区が占めるほかは、宅地等として利用されており、両市における社会、経済の重要な基盤を成している。また、感潮域左岸に位置する那覇新都心は、行政機関や商業施設等が集積しており県内有数の市街地となっている。

流域の地形は、上流域の標高100～160mの丘陵地、中下流域の標高10～40mの丘陵地、及び最下流域の海岸平野・埋め立て地となっている。安謝川は丘陵地を浸食して流れ、両岸に沖積平野の発達はほとんど見られない。

流域の地質は、新第三紀の泥岩を主体とする島尻層群が主体で、上流域から中流域にあたる末吉公園付近と感潮域の安謝橋付近に琉球石灰岩が分布している。沖積層の分布は、流域に沖積低地の発達が乏しいことから最下流域にごくわずか見られる程度である。



1-1 流域概要図

## 第2節 治水の現状と課題

安謝川の治水事業は、狭窄部における度重なる氾濫被害を防止するため、昭和47年度から河川改修事業に着手し、河道拡幅や護岸等の整備が行われてきたが、狭窄部の残る国道330号から上流の区間では、台風や豪雨による出水によって度々浸水被害を受けている。特に昭和60年8月の台風8・9号の豪雨、昭和61年9月の台風16号の豪雨、平成11年9月の台風18号の豪雨では、古島地区及び石嶺地区において床上・床下浸水など甚大な被害に見舞われている。このような状況から河川整備を早急に進めていく必要がある。

表1-1 主な既往洪水と浸水被害の状況

洪水名	降水量(mm)		浸水家屋棟数(棟)	
	1時間雨量	日雨量	床上浸水	床下浸水
昭和60年8月 台風8・9号	95	224.5	169	81
昭和61年9月 台風16号	94	169.5	84	28
平成11年9月 台風18号	78	411.5	58	0

※降水量は那覇観測所(気象庁)の雨量

※浸水家屋棟数は水害統計による

## 第3節 河川の利用及び河川環境の現状と課題

河川水の利用については、許可水利権や慣行水利権による河川水の利用はされていない。

河川の利用については、中流部の末吉公園内では、緑豊かな自然環境の中に溪流状の自然河岸が残されており、公園と一体となって憩いの場となっている。また、地域住民の河川環境への関心は高く、地域住民と行政が互いに協力し合い、河川清掃やリバーウォッチング等が行われている。一方、末吉公園地区以外では、河川の利用はあまり見られない。

安謝川の源流から末吉公園までの上流部は、大部分がコンクリートの三面張りとなっており、生物の生息はほとんど見られない。

末吉公園内の中流部は、変化に富んだ自然豊かな溪流環境となっており、河床には露岩や転石が見られ、転石の下にはサカモトサワガニ等の甲殻類が生息している。また、流れの緩やかな淵などでは、クロヨシノボリやアヤヨシノボリ、オオウナギ等の魚類、ミナミテナガエビやコンジテナガエビ、ヌマエビ、モクズガニ等の甲殻類が生息している。水際にはシュロガヤツリ、ヤナギバルイラソウ等の草本植物が繁茂し、アカナガイトトンボの幼虫、シマトビケラ等の昆虫類の生息場となっている。

末吉公園から沢岷川合流点までの下流部は、市街地の中を流れる都市河川の様相

を示しており、水際にはススキ、ヤナギバルイラソウ等が繁茂し、流れの緩やかな淵などには、アヤヨシノボリ、ユゴイ等の魚類が生息している。

沢岬川の合流地点から河口までの感潮域では、ノコギリガザミ、オキナワハクセンシオマネキ、フタバカクガニ等の甲殻類や、ナミハゼ、スナゴハゼ等の魚類が生息し、これらを求めてゴイサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ等の水鳥の飛来が見られる。

安謝川水位観測所（観測地点流域面積：5.0km<sup>2</sup>）における流況（昭和50年～平成20年）は、平均低水流量 0.095m<sup>3</sup>/s、平均濁水流量 0.048m<sup>3</sup>/s であり、平均濁水比流量は 0.960m<sup>3</sup>/s/100km<sup>2</sup> である。

※低水流量：1年を通じて275日はこれを下回らない流量をいいます。

※濁水流量：1年を通じて355日はこれを下回らない流量をいいます。

※比流量：流域面積100km<sup>2</sup>あたりの流量をいいます。

河川の水質については、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として安謝川の全域がC類型に指定されている。水質の現状は、近年下水道の整備等により全川的に改善傾向がみられ、平成19年度水質調査結果（BOD75%値）では、上流部の昭和橋で5.0mg/l、下流部の末吉新橋で1.2mg/l、<sup>うちま</sup>内間橋で7.4mg/l、感潮域の安謝橋で2.1mg/lとなっており、環境基準点の安謝橋においては基準値（BOD5.0mg/l以下）を満たしているものの、未だ基準値を満たしていない地点もあることから更なる水質の改善が求められている。

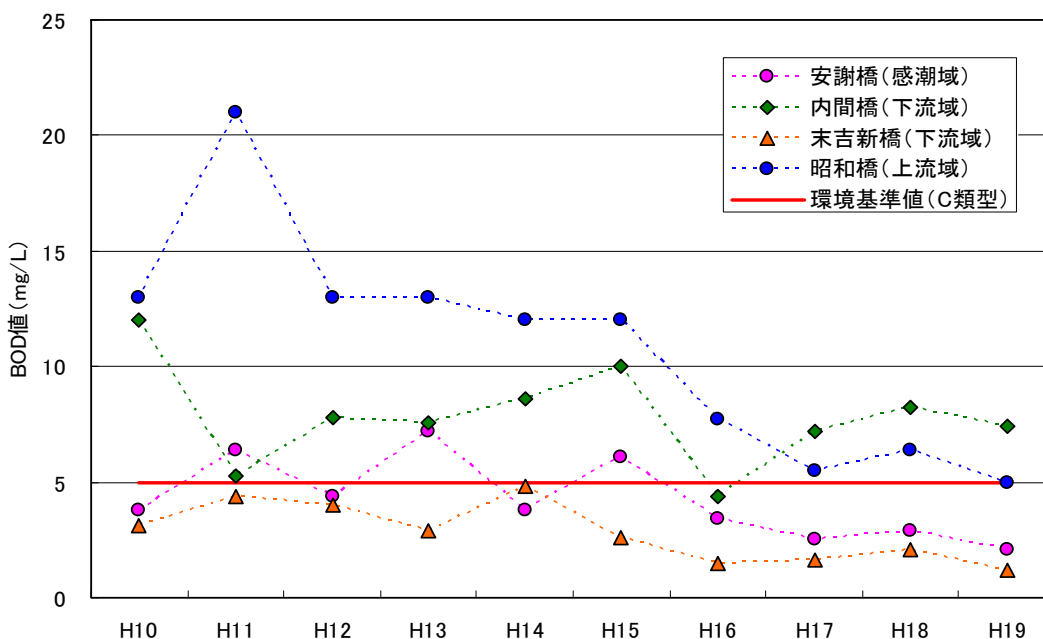


図1-2 安謝川の水質（BOD75%値）経年変化

## 第2章 河川整備計画の目標に関する事項

### 第1節 河川整備計画の対象区間

本計画の対象とする区間は、下記の表2-1に示す区間とする。

表2-1 整備計画対象区間

河川	対象区間		対象区間
	自	至	
安謝川	右岸：那覇市首里石嶺町 3丁目4番地 左岸：那覇市首里石嶺町 3丁目80番地	右岸：海に至る 左岸：海に至る	約5.2km

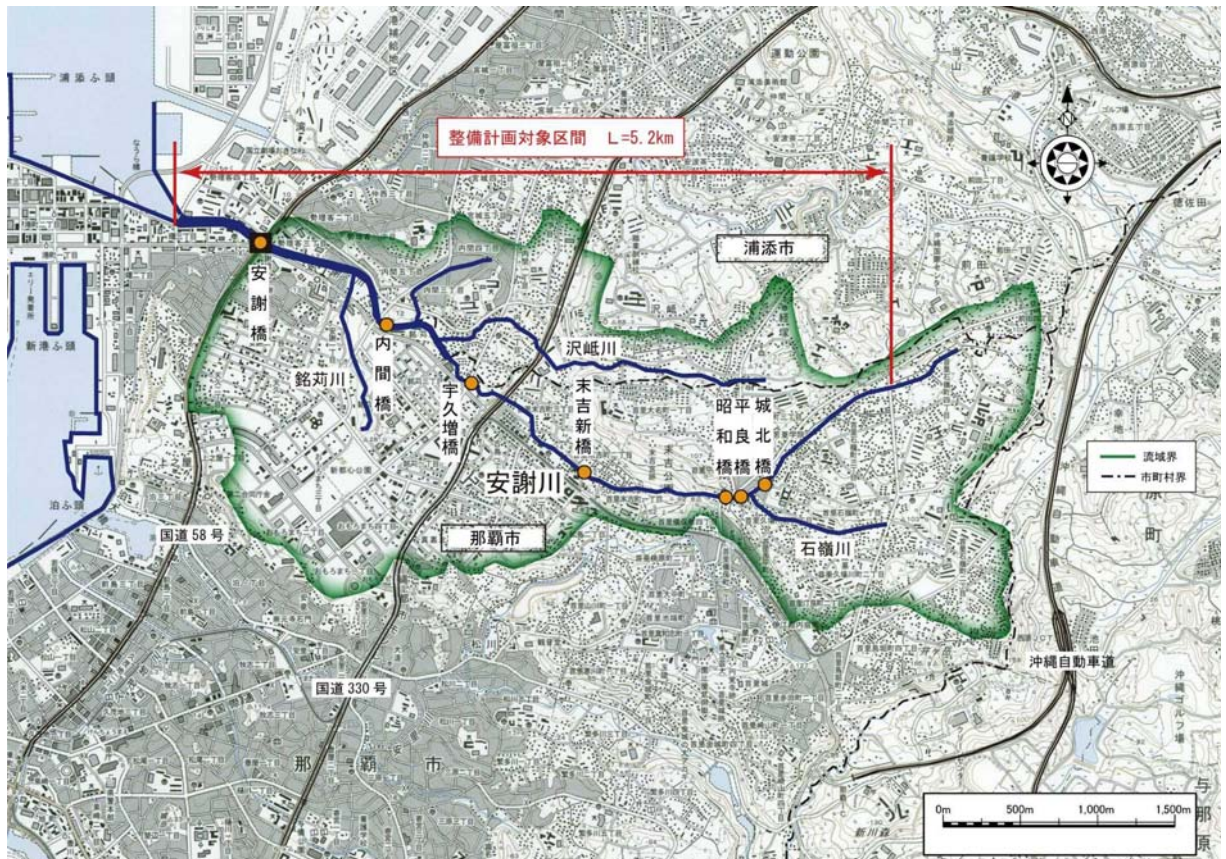


図2-1 整備計画対象区間概要図

## 第2節 河川整備計画の対象期間

河川整備計画の対象期間は、計画策定から概ね15年とする。

本計画は、現時点の安謝川流域の社会状況・自然状況・河道状況に基づき策定するものであり、今後も流域状況の変化や新たな知見・技術の進捗等の変化により適宜見直しを行うものとする。

## 第3節 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

安謝川水系においては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮して、50年に1回程度の降雨による洪水の発生に対し、沿川住宅地等の浸水被害の防止を目標とするとともに、台風による高潮にも対処する。

また、計画規模を上回るような洪水の発生に対しても被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備に努める。

## 第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する目標

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、水質の改善に取り組むとともに、生物の生息・生育環境に配慮し、適正な水利用が図られるよう努める。また、流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、引き続き流況等の把握に努め、今後更に検討を行うものとする。

河川の水質については、近年、下水道の整備等により全川的に改善傾向がみられるが、環境基準値を満たしていない地点もあることから、今後も関係機関及び地域住民と連携しながら、水質の改善に努め、環境基準を達成する適正な水質の確保を目標とする。

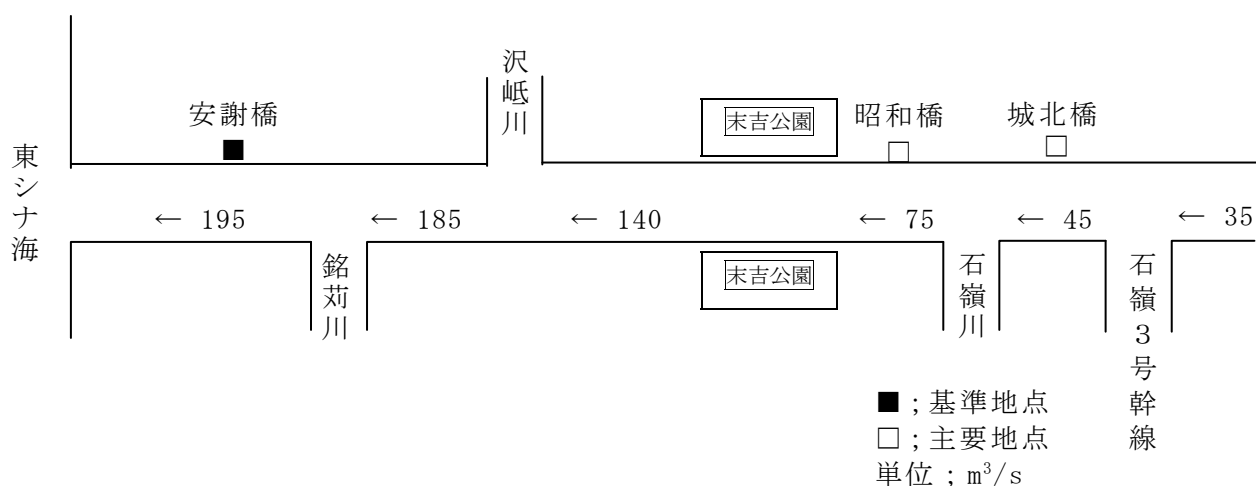
河川環境の整備と保全に関しては、治水との調和を図りながら、動植物の生息・生育環境の保全に努める。また、安謝川は住宅地における貴重な水辺空間であるため、水辺に親しみ、安らぎやくつろぎを享受できる場の確保により、人々が集い、賑わう水辺空間の創出を目標とする。

### 第3章 河川の整備の実施に関する事項

#### 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

##### 1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所

安謝川水系については、50年に1回程度の降雨による洪水の発生に対し、沿川住宅地等の浸水被害の防止を目的として、安謝川の河道拡幅及び護岸等の整備を行うものとする。



計画高水流量配分図

安謝川の河川改修は現在宇久増橋まで概成しており、未整備区間として残っている宇久増橋より上流について河川改修を鋭意進めていくこととする。

なお、平良橋より上流は、計画高水流量に対して現況の流下能力が大幅に不足し浸水被害が頻発しているため、段階的な整備に取り組む等、治水効果の早期発現に努める。

河川名	施行の場所	整備の内容
安謝川	右岸：那覇市首里石嶺町 3 丁目から河口まで 左岸：那覇市首里石嶺町 3 丁目から河口まで	河道拡幅及び護岸等の整備、延長約 5.2km



## 2. 河川管理施設の機能の概要

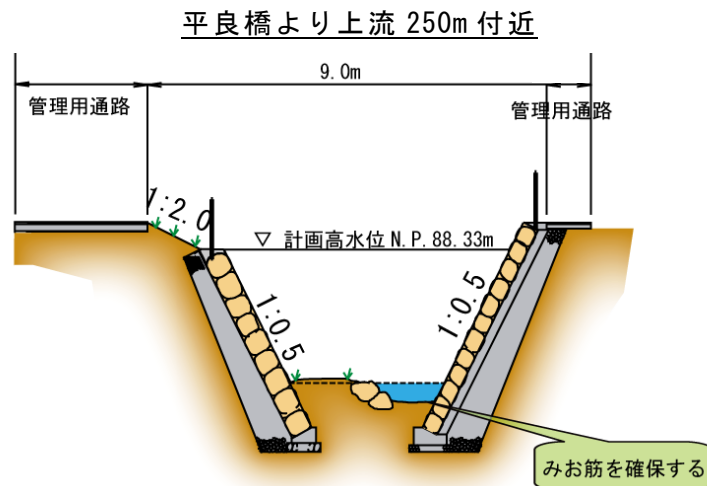
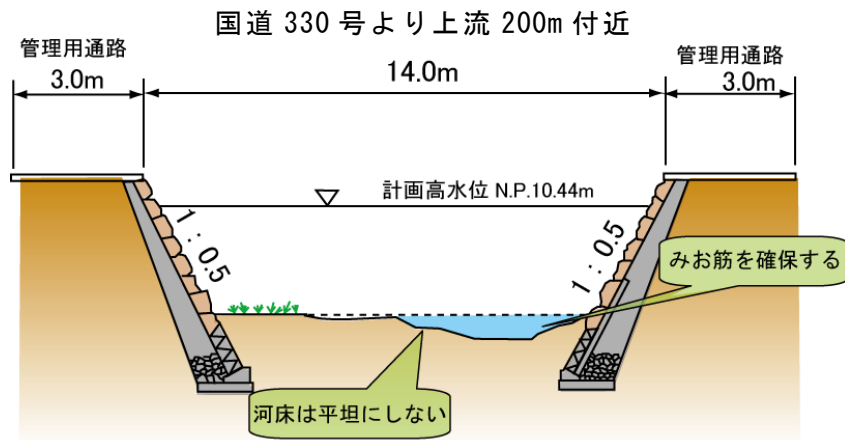
河川整備にあたっては、治水上の安全性を確保しつつ、河川が本来有している動植物の生息・生育環境の保全あるいは創出に努める。また、地域住民の川や自然とのふれあいや潤いと安らぎの場としての機能にも配慮した整備に努める。

上流部は、河道の目標流量が安全に流下できず浸水被害が生じていることから、河道断面積を拡大するため河道拡幅等を実施する。河床は、みお筋の適切な確保等により、常にせせらぎのある状態となるよう整備に努める。河岸法面は、緑化可能なスペースにおいて緑化に努める。河岸は用地の制約から5分勾配の護岸となるが、河道内での維持管理作業や水辺での活動を容易にできるように階段やスロープ等の水辺へのアクセスを可能とする施設の設置に努める。その際、急な増水でも避難が可能となるよう配置等に留意する。

中流部は、末吉公園内の良好な自然環境となっていることから、これらの環境の保全に努める。

下流部は、流下能力が大幅に不足している国道330号下のボックスカルバートの改築を進めるとともに、未整備区間において河道拡幅等を実施する。なお、護岸工については根継ぎ等により既設護岸を可能な限り活用した整備に努める。

河川工事の実施にあたっては、赤土等の流出防止対策を行い、水質汚濁の防止に努める。



## 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川はその状態が水象・気象により大きく変化する自然公物であり、河川全体の管理水準の向上を確実なものとするため普段から継続的に調査点検を行い、その結果に基づいて維持管理する必要がある。このため、河川の状態の変化に対応できるよう、年間の維持管理スケジュールを定める「維持管理計画」を策定し、その計画に基づき維持管理を行った結果を評価して、次年度の「維持管理計画」に反映する「サイクル型維持管理体系」を構築する。

河川の維持管理にあたっては、治水、利水、環境の調和がとれ、かつ所期の機能を維持することを目的として、下記の事項を行うものとする。

### 1. 河川管理施設の維持管理

河川管理施設の機能を十分に発揮させることを目的として、施設の変状、破損等の異常の早期発見に努め、異常を発見した時は原因を究明し、速やかに補修して災害の発生を未然に防止する。

また、洪水流下の阻害となる河道内の堆積土砂及び植生については、瀬・淵の状態など環境上の影響にも配慮して適正な対処に努める。

### 2. 水量・水質の監視等

安謝川においては、治水・利水・環境に係る情報として、降水量、河川水位、河川流量、河川水質等の把握を行う。

また、河川の水質事故については、河川巡視や地域との連携により早期発見と適切な対処に努める。

## 第3節 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

### 1. 地域ぐるみの河川管理

安謝川を常に安全に適切に利用・管理する機運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで形成することを目的に、河川管理者として収集した情報や河川利用に関する情報等の提供を行い、住民参加による河川管理を推進する。

### 2. 情報伝達体制の構築

安謝川における洪水被害を防止・軽減することを目的として、これらに関する情報の提供を行うとともに、地域住民一人一人の防災意識を高めるよう努める。

また、関係機関と連携し、洪水時における地域住民の警戒・避難を助けるため情報伝達体制の構築に努める。